

ドライバーの怒り感情を引き起こす 周囲の要因とそれを減少させる運転 方法について

関西国際大学
畠中 大輔

みなさんは運転中に . . .

- 前を走る車がトロトロ遅い . . .
- 交通取締にあって違反金 . . .
- 目の前に無理やり割り込まれる . . .
- 対向車がいきなり右左折してくる . . .

色々な場面でイライラしたことはありませんか？



イライラすると . . .

- 相手の車をあおったり、スピードを上げたりして、**冷静さ**を欠いてしまうことも . . .
(怒り対処行動)



その結果

周囲を巻き込んだ、大きな事故につながる！！

事故が起こる原因は？

- ・自動車や道路が原因で起こる事故は少数であり、**多くは運転者**に起因している（Shinar,1985）
- ・交通事故における人間要因の占める割合は**80%**を超える（小林・相部,1980）

運転者の心理状態で起こる事故が圧倒的に多く、さらに、**運転者のパーソナリティ（性格）**にも大きな原因がある。



先行研究では

若年ドライバーに焦点を当てた研究が少なく、また、若年ドライバーは怒り感情を発生しにくいという結果であった（藤井,2014）



本当に若年ドライバーは怒り感情を発生しにくいのか。もし発生するならば、どのような場面で発生しやすいのか。

先行研究からの改善点

- ①若年ドライバーに対象を絞る
- ②パーソナリティからみた怒り感情
- ③GPA尺度の追加
- ④社会考慮尺度の追加

目的

- 若年ドライバーはどんな場面で怒り、それにどのように対処するのか。
- また、GPAや社会考慮度と運転中に発生する怒り感情とどのように関係があるのか。



- これらから、**パーソナリティ特性**が交通社会にどう影響をするかを検討する。

方法

- ・ 調査対象者 自動車運転免許を所持する男女学生199名（平均20.37歳）

怒り感情に関する質問紙に10分程度で回答してもらい、運転時の「感情」に限りなく近いものに○を入れる方式で行った。

→ イラッとする

例) 車の前をバスがゆっくり走っているとき

1 2 3 4 ⑤

結果①

表1 ドライバーの怒り感情ならびに社会所属意識と対処行動との関連性(重回帰分析結果)

	攻撃		抑圧		敵意	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
運転妨害	.30**	.48***	-.00	-.20	.13	.62***
交通違反	-.20	-.13	.03	-.20	-.16	.09
運転マナー	.30**	.27	-.22	.05	.31*	.09
危険状況	.11	.12	.06	-.25	.03	-.01
社会所属	-.19*	-.04	.33***	.18	.14	-.07
R2	.39	.57	.15	.15	.14	.56

***p<.001 **p<.01 *p<.05

- 社会所属意識の高い男性は、怒り感情を抑圧する傾向がある。
- 運転を妨害された女性は、相手に敵意を向ける傾向がある。

結果②

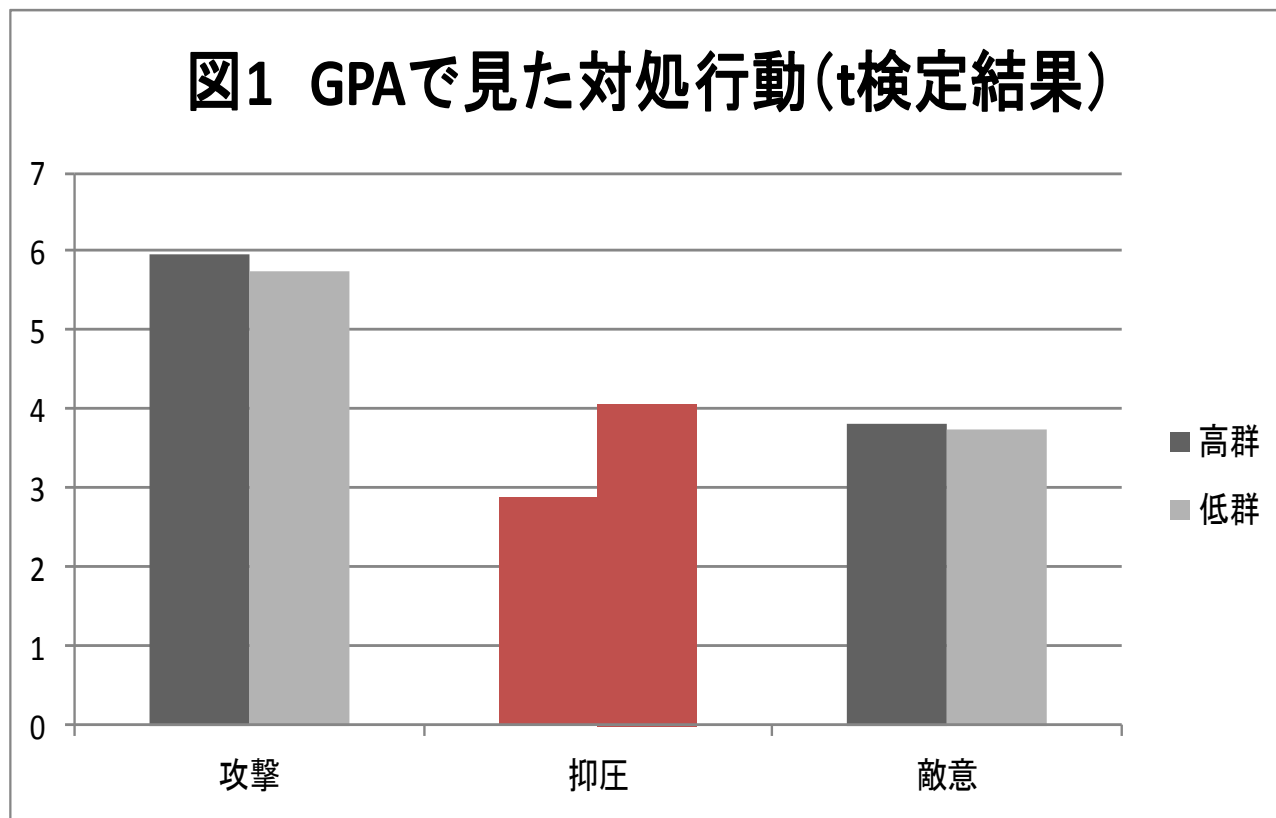
表2 パーソナリティ特性から見たドライバーの怒り感情ならびに社会所属意識と対処行動との関連性(重回帰分析結果)

	運転妨害		交通違反		運転マナー		危険状況		社会所属	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
攻撃	.50***	.45***	.29**	.13***	.46***	.52***	.45***	.43***	-.19*	-.18
抑圧	.05	.02	.09	.16	-.04	.06	.01	-.01	.29**	-.19
敵意	.08	.22***	-.00	.37**	.17*	.33**	.10	.29**	.15	-.15
R ²	.27	.69	.08	.19	.31	.53	.24	.41	.15	.08

***p<.001 **p<.01 *p<.05

- 対処行動が攻撃傾向のある男女は、ほぼ全ての場面で有意な差がみられた。

結果③



- GPAの高い人ほど、怒り感情を抑圧しない傾向がある。

考察

①若年ドライバーの怒り感情

男：**社会・交通規範**を大切にする意識が高い

女：相手のドライバーに**敵意**を示す

→男女での運転時の周囲への配慮の違い。

若年ドライバーでも怒り感情は発生する。

②パーソナリティ

男女ともに攻撃的な人は、運転時の**イレギュラーな場面全て**で怒り感情を示す。

→気が短い人は、交通社会の秩序を乱す大きな**危険因子**である。すなわち、自動車や道路の問題よりも重大。

考察②

③GPA

GPAの高い人ほど怒り感情を表に出す。

→勉強ができるからと言って、周囲を**考慮**し、安全運転をするわけではない。

④社会考慮

社会所属意識の高い人ほど、怒り感情を**抑圧**す傾向がある。

→“社会規範を守らねば”という強い**責任感**が自動車運転にも反映されている。

今後の課題

① 文章だけでは、場面を想起しにくい

→ シュミレーターなどのより実際の状況に近い環境を作り出すことが必要である。

② 若者の車離れ

→ 現在乗っている車の名前がわからない等の興味関心の薄れが顕著 → 今後の調査がますますやりにくい。